



上小だより

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町 1337-1 / TEL:048-644-6251

教育目標
◎心豊かな子
◎進んで学ぶ子
◎健康な子



スヌーピーの木（ケヤキ）

行為の意味

校長 大島 恵美

校庭のケヤキ通称「スヌーピーの木」もいつの間にか黄金色に染まり、毎日はらはらと葉を落としています。本校は落葉樹が多く、ビオトープや校庭の東側の木々が一気に葉が色づき、そして散っていきます。登校してくる子どもたちは、厚着の上着や手袋へと装いも変わり、いよいよ冬本番の到来です。今年も残すところ1ヶ月となりました。

11月は学習発表会を実施しました。インフルエンザなどの感染症が流行し始めたため、校内発表会はブロック学年・オンラインでのハイブリット実施となりました。どの学年も一生懸命演奏し、そして一生懸命聴いていました。その子どもたちの姿を見ているだけで、涙が止まりませんでした。一生懸命な姿は感動を与えます。一生懸命は「かっこいい」と子どもたちにも伝えました。

さて、1948年（昭和23年）12月10日に『世界人権宣言』が国連で採択されて以来、わが国では12月4日からの一週間を「人権週間」と定めて人権尊重の普及高揚に取り組んでいます。人権とは、「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」であり、だれにとっても身近で大切なものの、日常の『思いやりの心』によって守られるものだと考えています。しかし、今なお、様々な人権問題が依然として存在しています。これらの問題を解決し、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」社会を実現するには、私たち一人ひとりが人権尊重の重要性を改めて認識し、他人の人権に配慮した行動をとることが大切です。

そこで思い出されるのは、宮澤章二さんの詩「行為の意味」です。

「こころ」はだれにも見えないけれど 「こころづかい」は見える

「思い」は見えないけれど 「思いやり」はだれにでも見える

2011年の東日本大震災の直後、テレビCMで流され、たくさんの人たちの心を打ちました。「『思いやり』や『美しい気持ち』が、行為（行動）となってこそ意味を持つ」とする作者のメッセージは、それまでの自分について深く考えさせられたものです。

本校では、目指す児童像の一つに『思いやりのある子』を掲げています。

「あたたかい心が あたたかい行為になり やさしい思いが やさしい行為になるとき 心も思いも 初めて美しく生きる それは 人が人として生きることだ」と、この詩が結ばれているように、子どもたちがもっている優しい気持ちが行為となるように、人へ働きかけられる児童を育ててまいります。

「ジングルレベル ジングルレベル 鈴が鳴る 鈴のリズムに 光の輪が舞う」そろそろ街では「ジングルレベル」が聞こえてくるようになりました。実は、この歌詞も宮澤章二さんの作品です。

今学期も、保護者、地域の皆様には、本校の教育活動においてご支援いただきましたこと、心より感謝申し上げます。来年も引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。